

ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援

■ 本プログラム創設の目的

- (1) ヘルスケアの領域で今後一層の活躍が見込まれる市民活動を発掘し、その活動を後押しすること。
- (2) これからの社会の担い手として重要な役割が期待される市民活動自体の社会的認知を高めること。

■ 本プログラムの特徴

- (1) ヘルスケアを広く捉え、本業(医薬品の提供や医療)だけでは賅えないヘルスケアの分野で活動する市民団体を支援対象としていること。
- (2) 中でも政府や自治体などの公的機関からのサービスや社会資源の十分に整っていない分野の市民活動を重点的に支援していること。
- (3) 団体としての過去の実績ではなく、その団体が取り組もうとしているプロジェクトの独創性・試行性に評価の重点を置いていること。
- (4) 単年だけではなく、最長3年間の継続した支援も行なっていること。
- (5) 市民活動の社会的認知の向上を目的としたPRも行なっていること。
- (6) 市民活動団体の情報交換の場を提供していること。

■ 重点課題

- (1) 成長過程にある人たちの心身の健やかな発達を支援する活動。
- (2) 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身のケアを支援する活動。
- (3) 障害を持つ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動。

■ 2006年度の公募と選考について

私どもファイザー株式会社は、製薬企業として、革新的な医薬品の開発、製造、販売を通じ、人々の健康で豊かな人生の実現に寄与することにより、社会へ貢献したいと考えております。しかしながら、よりよい社会の実現のためには、医薬品の提供だけでは果たすことのできない課題がたくさんあります。そこで、企業にも行政にもないフットワークと、所属を超えて連携できるネットワークを持ち、それらの課題一つひとつに真摯に取り組まれている市民活動団体の方々を支援することが、より良い社会の実現に向けたお手伝いになるのではないかと考え、2000年9月に社会貢献活動の一環として、この「ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援」を創設致しました。以来、2005年までの6年間に、延べ1881件ものご応募を頂き、新規助成・継続助成合わせて142件のプロジェクトに対し、2億6951万円を助成金として支援させて頂きました。ファイザープログラムを通じ、ヘルスケアに関する社会の多様な課題を認識できましたこと、さらには、それらの問題に果敢に取り組まれる皆さまの熱意に接する機会を得られたことは、事業活動だけでは到底知り得なかったことであり、私どもと致しましても市民活動支援の意義を改めて実感しております。

しかしながら、当プログラムも6年という年月を経て、プログラムの見直しを図るべく、2006年度は新規募集を一時休止し、継続助成のみ実施致しました。従いまして、本冊子の内容も、継続助成についてのみご案内しておりますことを予めご了承下さい。

本年度、新規助成へのご応募を予定して頂いておりました皆さまにはご不便をお掛け致しましたこととお詫び申し上げます。なお、新プログラムにつきましては、これまでの経験と皆さまからのご意見を踏まえ、2007年度中には再開したいと考えておりますので、よろしくご意見申し上げます。

ファイザープログラム事務局

2006年度選考結果(継続助成のみ)

2006年度の継続助成は、応募資格を有する22団体よりご応募を頂き、選考委員会による慎重な審査の結果、13件(継続助成総額2,700万円)が、助成対象プロジェクトとして選ばれました。

なお、2006年度の助成期間は、2007年1月1日から2007年12月31日までの1年間です。

■ 応募期間

2006年8月1日(火)～8月11日(金)

■ 継続助成の対象について

2004年度から2005年度に助成を受けたプロジェクトで、これまでの実績を踏まえ、それを継承・発展させたプロジェクト。継続助成は新規助成分を含め3回までに限られます。

■ 助成対象団体の要件

下記の要件を満たした市民活動団体(個人は対象となりません)に限ります。

- ① 非営利団体であること(法人格の種類や有無は問わない)
- ② 日本国内に活動拠点があること
- ③ 原則として2年以上の活動実績があること
- ④ 団体の目的や活動内容が、政治・宗教などに偏っていないこと

■ 選考基準

(1) 応募する団体が「助成対象団体の要件」を満たしているか。(「継続助成の対象について」参照)

(2) これまでの活動が、以下の点で高く評価されるか。

- ① プロジェクトが問題なく実施されているかどうか
- ② プロジェクトを実施するための十分な協力体制が得られているかどうか
- ③ プロジェクトの成果が得られつつあるかどうか
- ④ これまでの取り組みに対しての分析・評価がなされているかどうか(3年目助成への応募のみ)

(3) 応募するプロジェクトが、以下の点で高く評価されるか

- ① プロジェクトの内容に発展や展開が見られるかどうか
- ② プロジェクトを実施するための計画の立て方が適切かどうか
- ③ 自立に向けた活動(体制・資金など)が展開されているかどうか(3年目助成への応募のみ)

■ 2006年度継続助成選考委員会

委員長	清水 幹夫	法政大学 現代福祉学部 現代福祉学科 教授
委員	赤塚 光子	立教大学 コミュニティ福祉学部 福祉学科 教授
委員	沢田 貴志	シェア＝国際保健協力市民の会 副代表理事・医師
委員	諏訪 徹	全国社会福祉協議会 中央福祉人材センター 参事
委員	田尻 佳史	日本 NPO センター 理事・事務局長
委員	島谷 克義	ファイザー株式会社 常務取締役(開発渉外担当)

2006 年度 助成対象プロジェクト一覧

継続

助成 2 年目 (8 件)

	プロジェクト名	団体名	代表者氏名	所在地	助成額 (万円)
1	衰退する地場産業の維持・継承を通じて精神障害者の社会的自立を支援する事業	医療法人 直志会	粉川 克己	茨城	259
2	あそび非行型不登校児童生徒のためのスポーツタイム	フリスネット	斉藤 宗夫	埼玉	132
3	刑事被拘禁者のための医療措置に関する相談事業	特定非営利活動法人 監獄人権センター	村井 敏邦	東京	200
4	「在日ラテンアメリカ系市民のHIV感染者・AIDS 患者支援」事業	特定非営利活動法人 CRIATIVOS-HIV・STD 関連支援センター	岩木 章子	神奈川	150
5	ハンディーのある子どもたちの表現活動をすすめるプロジェクト	特定非営利活動法人 クリエイティブサポートレッツ	久保田 翠	静岡	250
6	無国籍状態におかれたフィリピン人の子ども達の学校運営と発達支援	宗教法人 日本聖公会中部教区 名古屋学生青年センター	池住 圭	愛知	240
7	障害者の雇用創出にむけた地産地消型農産物加工惣菜の製造支援	特定非営利活動法人 経営指針認証機関	岩田 誠	和歌山	220
8	デートDV防止授業の実施と支援者育成プログラム	特定非営利活動法人 DV防止ながさき	中田 慶子	長崎	220

助成 3 年目 (5 件)

	プロジェクト名	団体名	代表者氏名	所在地	助成額 (万円)
9	同性愛者向けサポート拡大プロジェクト	特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンのかい	永田 雅司	東京	230
10	人身売買の犠牲となった青少年への支援(カンボジア)	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち	宮尾 舜助	東京	200
11	地域で取り組む輝く親子の絆作りプロジェクト	マイママ・セラピー	押栗 泰代	滋賀	263
12	相談の場として小児がん患児コミュニティを運営する事業	特定非営利活動法人 エスビューロー	安道 照子	大阪	200
13	障害のある人の芸術活動を支援する事業	特定非営利活動法人 アトリエ素心居	河部 宏子	愛媛	136
助 成 総 額 (13 件・合計)					2,700 万円

(※ 2006 年度助成の助成期間は、2007 年 1 月 1 日～12 月 31 日です。)

継続助成案件の選考経過と助成の特徴

今年は2年目助成応募14件、3年目助成応募8件、計22件の応募がありました。外部有識者5名、ファイザー株式会社代表1名、計6名からなる委員が選考にあたりました。助成2年目の14件は、10月14日の午前9時15分から、午後4時30分までの間にそれぞれ20分以内にプレゼンテーションと委員による質疑が行われ、その後約2時間をかけて仮評価が行われました。2005年度の助成対象については、中間の現地インタビューの報告を考慮しながら、各選考委員の評価(A、B、C)を一覧にして評価理由を検討し、総合得点上位7件の採択予定案件と補欠案件2件、再検討案件2件を絞り込みました。

助成3年目の8件については、10月22日の午前10時から午後2時50分まで、それぞれ22分以内にプレゼンテーションと委員による質疑が行われ、各委員の評価理由を検討してから総合得点上位4件の採択予定案件と補欠案件2件、再検討案件2件に絞り込みました。その後、午後3時20分から午後6時まで、約2時間30分をかけて、改めて助成2年目の選考結果と3年目の選考結果を総合的に検討し、最終的に2年目助成8件、3年目助成5件、助成総額2700万円を確定しました。

2年目、3年目の助成応募であるだけに、どの案件も予め提示されている選考基準を十分に満たしているもので、採択したいものばかりでした。残念ながら、助成総額に上限があるので、評価得点の高い順に採択せざるを得ませんでした。結果的に活動の発展性、自立性、地域性、継続性の高い案件が採択されているといえます。

継続助成審査の委員長を2年間勤めさせていただいて、嬉しかったのは、ファイザーの助成金を得ることによって地域にさまざまな協力者が現れたり、他の団体や組織とのネットワークが出来るなど、めざましい変化と発展のプロセスの感じられる団体が多かったこと、福祉、医療、教育、国際、芸術、人権、障害、地域の諸問題などの分野で熱意を持って、地道に活動をしている人々に触れ得たこと、ファイザーという企業の社会貢献の実際に深く関わらせていただいたことです。助成団体の審査の公平を期すために、選考委員を数年ごとに入れ替えたり、助成審査を外部の学識経験者に委嘱するなど、企業の社会貢献の基本に触れたような体験でした。今後も、ファイザーの社会貢献が続くことと、もっと多くの企業にもこういった社会貢献のあり方が波及する事を心から願っています。

最後に、各選考委員を始め、助成審査の資料づくりや現地調査をして下さった「市民社会創造ファンド」の方々、休日を返上して選考会の下支えをして下さったファイザーの社員の方々に、選考委員を代表してお礼を申し上げます。

2006年度継続助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

(1) 衰退する地場産業の維持・継承を通じて精神障害者の社会的自立を支援する事業

団体名 : 医療法人 直志会
代表者氏名 : 粉川 克己
主な活動地域 : 茨城県

【推薦理由】

茨城県北部で、精神科病院を経営し、訪問看護、デイケア、造形教室、援護寮、地域生活支援センターなど、精神医療や精神障害者のリハビリテーションに取り組む医療法人。

この法人は1987年に、精神障害者のリハビリテーションのために、伝統的地場産業である常陸牛の肥育と繁殖を行う牧場を開設している。この牧場開設自体、地域性を生かし、施設外部のさまざまな事業所等と結びつかなければ成り立たない設定である。そして、ここで蓄積された経験を「畜産ヘルパー」として、高齢化に伴い人手を必要としている地域の畜産農家と結びつけ、地域のニーズに応えながら精神障害のある人たちの自立や社会参加を促進していこうというのが、この事業である。助成1年目で、「畜産ヘルパー」は、すでに一定の実績をあげている。認知度も上がり、利用内容も広がってきたようだ。また、ヘルパーたちの、自立に向けた意識も向上しているという。本事業は、地域での生活に困難が多いとされる精神障害のある人たちへの支援のあり方について、この地域と密着した実践によって一つのモデルを示してくれるだろう。

(2) あそび非行型不登校児童生徒のためのスポーツタイム

団体名 : フリスネット
代表者氏名 : 斉藤 宗夫
主な活動地域 : 埼玉県新座市および周辺地域

【推薦理由】

廃校になった小学校の体育館を利用して、ひきこもり傾向、ニート傾向、不登校の小中学生、高校中退者が、近隣の障害を持つ人とともに、スポーツ活動を行うことによって、相互理解と思いやりの心をはぐくむ活動を実践している団体。

助成1年目の活動を通して、自主的に夜間高校に通い始める生徒や、就職やアルバイトを始める青年があらわれるなど、数量的にはわずかであっても効果が見え始めてきているようだ。助成2年目となる今回のプロジェクトには、最近増加傾向にある“あそび非行型不登校”の児童生徒が加わることとなったが、様々な障害を持つ人たちとのスポーツ活動を通して、ともに成長するという基本は変えることなく、どのような成果に繋がるかを期待したい。さまざまな人々が、地域で、ともにスポーツを楽しむという、このシンプルな活動を通して、ひきこもりやニート、不登校などの児童生徒たちへの普遍的なアプローチを見出すことができれば大きな意義があると考え、継続助成とした。

(3) 刑事被拘禁者のための医療措置に関する相談事業

団体名 : 特定非営利活動法人 監獄人権センター
代表者氏名 : 村井 敏邦
主な活動地域 : 全国

【推薦理由】

日本およびアジアの刑事拘禁施設の人権状況を国際基準に合致するように改善することを目的に、被拘禁者及び関係者への支援や刑事政策に関する提言を行うとともに、被拘禁者や家族からの相談に対応し、必要に応じて刑事施設の改善や適切な対応を示唆し、被拘禁者の社会復帰や再犯の防止に貢献する団体。

助成1年目の事業では、医療措置における電話相談及び面会相談を実施する一方、刑事施設等の改善に向けたロビー活動、一般市民向けの啓発活動などが行われた。団体に寄せられる相談件数は毎月70件程にもなり、その約半数が、医療に関するものや拘禁性の精神疾患を持つ方からの相談であるという。2年目の助成を実施するにあたり、日本の刑務所や拘置所といった閉鎖された収容生活の中で、適切な医療を受けられないために死に至るといった事件が起こる中、被拘禁者の人権を守るために活動する団体は数少ないという点も考慮し、プロジェクトの主たる目的である「医療措置」に関する相談対応の一層の充実を期待し、引き続き助成をすることとした。

(4) 「在日ラテンアメリカ系市民のHIV感染者・AIDS 患者支援」事業

団体名 : 特定非営利活動法人 CRIATIVOS-HIV・STD 関連支援センター
代表者氏名 : 岩木 章子
主な活動地域 : 全国

【推薦理由】

在日ラテンアメリカ系市民に対し、HIV・AIDS の予防とケアに取り組んでいる団体。この間、急速な HIV 感染の広がりが報告されている日本であるが、社会の関心は低い。特に、外国人など社会の少数者に対する支援は大きく立ち遅れている。CRIATIVOS は、予防のための情報が入り難く、医療機関での受診にも困難のある日系ラテンアメリカ人を対象に活動を続けている。自らも日系ラテンアメリカ人であることを生かした、対象者に密着した支援を行い、電話相談や医療機関への付き添いなどの支援を受けられる対象者を増やしている。

2 年目の助成となる今回は、需要の増加にあわせた体制の変更や、母国側の成功モデルを活用した教育資料の作成、研修の強化などを試みる計画となっている。今後、日本人外国人を問わず、AIDS 患者の増加が予測されている日本で十分なサービスを定着させるためには、担い手となる人材の拡大や医療従事者との連携を深めていくことも必要であろう。

(5) ハンディーのある子どもたちの表現活動をすすめるプロジェクト

団体名 : 特定非営利活動法人 クリエイティブサポートレッツ
代表者氏名 : 久保田 翠
主な活動地域 : 静岡県浜松市

【推薦理由】

静岡県浜松市における、ハンディーのある子どもたちの表現活動をとおして社会を啓発していこうという団体。

この事業においては、ハンディーがあることを子どもたち一人ひとりの個性としてとらえている。さらに、すべての子どもにはさまざまな可能性があり、その子の個性をのばし、いきいきと参加できる社会の創造が不可欠であると認識している。名付けて「イイトコロ発見プロジェクト」。ハンディーの部分は、その子の一部だ。プロジェクトで子どもたちは、表現の楽しさを体験しながら自分の得意なことをみつけていく。プロジェクトは、その子が見つけた得意なことが仕事や生きがいにつながるよう応援していく。ハンディーのある子どもたちを受け入れる土壌も必要だ。そういうことも意識して、このプロジェクトは地域のさまざまなところに出向き、地域の人たちと協働する。好ましく展開している助成1年目の成果が、より発展していくことを期待したい。

(6) 無国籍状態におかれたフィリピン人の子ども達の学校運営と発達支援

団体名 : 宗教法人 日本聖公会中部教区 名古屋学生青年センター
代表者氏名 : 池住 圭
主な活動地域 : 愛知県

【推薦理由】

教育等を通じて差別のない共生社会の建設に取り組んできた団体。無国籍状態におかれ、教育を受けることが困難となっているフィリピン人の子ども達を対象とした学校運営を行っている。

助成1年目では、子ども達のおかれた深刻な状況に鑑み、支援の対象となった。学校での初めての健康診断が行われ、健康面での指導も行われるようになった。しかし、子ども達の生活の長期的な安定のためにどのように資することができるのか、複雑な課題も抱えている。この学校を卒業した数名の児童が中学進学と共に公教育への参加が可能になったことや、母国語での補助教育が、帰国した場合の母国での教育への参加に役だったことなど将来の展望が少しずつ示されるようになってきたことは前進であろう。類似の環境にある子どもは少なくはなく、今後プログラムの自立性を高めるなど、汎用性のあるプログラムに展開できるかどうかが目玉される。

(7) 障害者の雇用創出にむけた地産地消型農産物加工惣菜の製造支援

団体名 : 特定非営利活動法人 経営指針認証機関
代表者氏名 : 岩田 誠
主な活動地域 : 和歌山県

【推薦理由】

地域経済を担う中小企業の継続的発展を目指し、経営方針やマネジメントシステムの構築の支援ならびに、地

域産業の振興による経済活動の活性化を目的に活動する団体。

助成 1 年目の事業では、福祉施設が運営する精神障害者の福祉工場における雇用数の拡大と経済的自立のための賃金向上を目指し、地域の農産物を活用して加工惣菜の製造を行う新規事業の提案や開発が行われた。具体的には、地産地消にこだわった商品の試作品を作り市場調査も行われた。単なる商品開発に留まることなく、障害者の作業能力に併せた工程の企画、運営なども丁寧に実施されている。

2 年目の事業計画としては、新たな試作品の開発と市場調査を実施して更なる改良と商品化に向けた継続的な事業を行うとともに、購買に向けた販路の調査を行い具体的な物流の開発を実施するものとなっている。障害者支援自立法の施行により障害者の社会参加が危ぶまれる中、新たなビジネスモデルとなる可能性に鑑み、引き続き助成することとした。

(8) デートDV防止授業の実施と支援者育成プログラム

団体名 : 特定非営利活動法人 DV防止ながさき
代表者氏名 : 中田 慶子
主な活動地域 : 長崎県

【推薦理由】

長崎県内のDV(ドメスティック・バイオレンス)の電話相談、カウンセリング、DV防止のための啓発活動、支援者の人材育成などに取り組む団体。

パートナー関係が構築される青年期の若者を対象にデートDV防止のプログラムを行うことで、より早期の予防を目指す取り組みである。1年目の助成では、長崎県離島部というプログラム実施がより困難な地域が対象であったが、教育機関や保健行政と連携することで効果的な普及を行ったことが評価された。1年目の活動で社会的な認知度を上げることに成功したが、このプログラムを今後どのような担い手によって継続的に実施できるようしていくかが注目される。この観点から、活動の継続とともに人材育成を目指す今回の応募は高く評価される。公的機関との連携を深め、行政サービスに組みこんでいくのか、NPO としての自立継続性を目指すのか、今後の展開に期待したい。

(9) 同性愛者向けサポート拡大プロジェクト

団体名 : 特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアン
代表者氏名 : 永田 雅司
主な活動地域 : 全国

【推薦理由】

社会的な理解が十分に得られているとはいえない同性愛者への相談活動、コミュニティーサークルづくりなど、支援活動を展開してきた団体。

団体は、2004年度・2005年度にわたる助成を受けて、各種の電話相談事業ごとに、共通の記録フォームに、相談を受けながら、その相談内容をその場でパソコンに入力し、情報を統合できる仕組みづくりを行うことで、相談内容を数字的・事例的に分析し、共有できる情報統合化のインフラ整備を完了させ、また、相談の質の維持・向上のための基盤整備を行った。

3年目の計画は、この相談記録から、「ゲイバッシング」「メンタルヘルス」「セクシャルヘルス」という3つの重点課題を抽出し、ソーシャル・アクション、サポート拡大に取り組む計画である。課題が広範におよぶため、盛りだくさんな活動計画となっているが、これまで整備されたインフラを十分に活用し、説得的なデータにもとづいて、活動の焦点を絞り込み、専門家・機関からの理解、サポート拡充が進められることを期待する。

(10) 人身売買の犠牲となった青少年への支援(カンボジア)

団体名 : 特定非営利活動法人 国境なき子どもたち
代表者氏名 : 宮尾 舜助
主な活動地域 : カンボジア・バタンバン地区

【推薦理由】

カンボジアのバタンバン地区において、主に人身売買の犠牲となった青少年のための自立支援施設を運営している団体。

自己管理能力、識字・学校教育や職業訓練の機会を提供するとともに、人身売買被害者の心理的支援体制の

充実を図るために、過去2年間のプロジェクトでは、現地のソーシャルワーカーやエドゥケーターに精神科医や看護師らによる高い専門知識の研修を実施し、カウンセリングスキルの向上を目指した。3年目のプロジェクトでは、彼らの経済的な自立と社会への再統合を果たすことに、より重点を置き、職業訓練プログラムの充実を図る。なお、この職業訓練プログラムは、近隣の貧困家庭の女性や若者の参加を促進するなど、地域住民の経済的自立への貢献も併せて行われる計画であり、この地域の根本的な課題について、今まで培ってきた地域コミュニティとの連携によって、どのように拓いていくのか展開が期待される。

(11) 地域で取り組む輝く親子の絆作りプロジェクト

団体名 : マイママ・セラピー

代表者氏名 : 押栗 泰代

主な活動地域 : 滋賀県

【推薦理由】

あかちゃんを育てる母親を対象に、ともに悩み、学び、考え、手をつなぎあえるためのサポート活動を行うグループ。過去2年間の助成を通じて、集団教室活動の回数や対象年齢層、電話・メールによるホットラインの相談件数などが着実に増え、また団体の体制や財政規模も拡大してきている。3年目となる今回は、従来活動の拡充とともに、これまで支援を受ける側だった母親たちがサポーターやコーディネーターとして支援者側となるための活動に取り組むなど、今後の活動の広がりに対応するための中核的な担い手づくりへの展望が見えてきていることが高く評価された。活動の自立が課題となるが、会費や企業との連携、NPO法人化など、いくつかの手段が検討されているようであり、会員の主体的な参加を基盤としながら、地域の各種機関とのネットワークをより確かなものとしてほしい。

(12) 相談の場として小児がん患児コミュニティを運営する事業

団体名 : 特定非営利活動法人 エスビューロー

代表者氏名 : 安道 照子

主な活動地域 : 大阪府

【推薦理由】

当団体は、小児がん患児家族の体験を共有して悩みに対応するために、小児科医師、心理士など専門家との協働体制を確立して、「電話相談事業」を立ち上げ、その後、「Eメール相談事業」へと活動を広げてきており、その過程で、当プログラムでも2年にわたり助成を行った。過去の相談事業の経験から、「電話」と「Eメール」という相談者との「顔の見えない関係」の限界を感じ、本年度は、「顔の見える関係」としての“小児がん患児家族のコミュニティ作り”を目的としたプロジェクトを立ち上げる。具体的には、小児がんを4つの疾患別に細分化した情報交換会を縦系に、小児がん児童の復学研究などのテーマ別の情報交換会を横系にしたマトリックスな運営体制で、よりきめの細かいピアサポートを実施する。引き続き、専門家との協業体制を維持しつつ、今回のプロジェクトの成果がきちんと検証されることを期待して、継続助成することとした。

(13) 障害のある人の芸術活動を支援する事業

団体名 : 特定非営利活動法人 アトリエ素心居

代表者氏名 : 河部 宏子

主な活動地域 : 愛媛県

【推薦理由】

障害のある人の芸術活動を支援することで、それぞれが地域の中で生き生きと暮らし、生きがいを見つけて社会参加を進められるようにすること、同時に社会に対して啓発を行うこと、これが本事業の目的である。

アトリエ素心居は、この目的のためにつくられた。陶芸や絵画などで、オリジナリティーのある作品が生み出されている。ファイザープログラムでの2003年度、2004年度の2年間の助成を受け、現在の活動につながる活動の基盤を作り上げ、和太鼓の演奏、音楽ムーブメントの実施などと活動内容は広がり定着をみせ、演奏会、展覧会などの開催において、地域の他団体との関係が強化されてきている。

こうした活動やイベントは、継続するということが大切だろう。市民が毎年、開催の時期を楽しみに待つようになるまで、より多くの人たちと手を結び、進んでいってくれることを願っている。アトリエ素心居は、そのための開かれた発信基地であってほしい。